

子どもの本

研究会



【私の一冊】『光陰の刃』 西村 健 著 (講談社)



山田 元樹



作家西村健さんは、非常に愛すべきキャラクターの方で、私ごととも気楽に飲みに行っては馬鹿話を交えてくださいます。健さんとの交友のきっかけとなったのが、この本です。といっても、これを読んでファンになったというような単純なことではありません。

私は福岡（福岡市とその周辺）の出身です。昭和50年代半ば、高校の日本史の授業で、昭和初期の血盟団事件によって三井財閥幹部の團琢磨が暗殺され、犠牲となったことを学びました。教科書に名前が載るその人物は私にとっては、織田信長や豊臣秀吉と同列に感じられていました。一浪の後、進学した大学は無事4年間で卒業し、それまでの人生で特段縁のなかった大牟田市に、文化財専門職員として就職しました。

大牟田はご存じ三池炭鉱のまちです。就職した昭和61年当時は縮小局面にあったとは言え、まだまだ旺盛に稼行されていました。そして何よりも私を驚かせたのが、明治時代の炭鉱施設や炭鉱専用鉄道電気機関車が現役として動いている姿でした。今でこそ世界文化遺産に登録され、脚光を浴びるようになりましたが、その頃は「近代化遺産」という言葉も生まれる前で、その凄さを伝えるすべがないのがもどかしく思われました。

もう一つ驚いたのが、この三池炭鉱発展の立役者が、かの團琢磨であったことでした。改めて興味を持ち、調べていくと、何と福岡藩士の家、それも私が通った中学のある荒戸地区にあった家に生まれたとのこと。波乱万丈の人生は、さながらドラマのようで、もっと顕彰されてしかるべきとの思いにとらわれました。

そんな時、さる大牟田の政財界の方から、團琢磨の生涯を、大河ドラマの原作となるような筆致で著述するよう、西村健さんに依頼がなされました。その主旨を汲んで書き上げられたのが『光陰の刃』です。それに際して、私にも健さんに対する資料提供や故地の案内の用命があったのです。作品は、團琢磨とその暗殺者となった菱沼五郎の両者への視点を交互に描きながら、史実を底に敷いて紡ぎあげられた物語であり、実に読みごたえがあります。熊本県立、熊本市立をはじめ県内多くの図書館に蔵書されています。秋の夜長に手に取ってみられてはいかがでしょうか。

(大牟田市長 図書館長)



講座報告

2 回連続公開講座「日本の昔ばなしを読む」

第1回「つるにようぼう」

講師 森 正人さん（熊本大学名誉教授、

尚絅大学・尚絅大学短期大学部名誉教授）

日時 9月17日（水） 10時～11時45分

場所 くまもと県民交流館パレア会議室9

参加者 21人（オンライン2人含む）

□読み聞かせ『つるにようぼう』矢川澄子再話・

赤羽末吉絵 福音館書店

西坂治美

○絵本『つるにようぼう』と木下順二の『夕鶴』

課題本『つるにようぼう』は1979年10月

出版。昔話「鶴女房」だが原話は不明。矢川澄

子はドイツ文学の専門家。これは矢川が手がけ

た日本昔話再話絵本の最初の作品。

もう一つ視野に入れておくべきは、木下順二

の『夕鶴』（『婦人公論』1949年1月号発表

で、初演は同年10月。これが絵本に投影され

ているのではないか。絵本の男の名は「よ平（へ

い）」、『夕鶴』は「与ひよう」。連想を呼ぶ命名

になっている。昔話なので男の名前は必要ない

が、よ平と名付けている。そして、よ平をそそ

のかす男は、『夕鶴』の「惣（そう）ど」「運（う

んず）」に相当する。私の見た限り、男をそそ

のかす人物は昔話には出てこない。

○『夕鶴』の原話とされる「鶴女房」について

柳田国男編／鈴木棠三編著『全国昔話記録

佐渡島昔話集』（三省堂1942年）に「鶴女

房」がある。採話者の鈴木棠三は昔話および日

本の古典文学の研究者。語り手は道下ヒメで、

採集は1936年。男の名は「兄（あにちゃん）、

女（鶴）の名は初め「姉（あね）さん」で、結

婚後「嫁さん」となる。兄ちゃんと姉さんは、

佐渡の方言で若い男性、若い女性をいう。そそ

のかす男は登場しない。佐渡市北片辺には木下

順二揮毫の「夕鶴のふるさと」の碑がある。『夕

鶴』は「佐渡島昔話集」をもとにした作品である。

○異類婚姻譚

「鶴女房」は人間と人間でないものが結婚す

る異類婚姻譚。柳田国男『日本昔話名彙』では、

幸福なる婚姻というタイプの中の一つ。○○女

房と○○智人（むこいり）と呼び分けられてい

る。関敬吾『日本昔話大成』では婚姻・異類智

婚姻・異類女房、婚姻・難題智となっている。

『日本昔話事典』（弘文堂1977年）に「異

類婚姻譚」（福田晃担当）の項目がある。福田

の専門は日本古典文学で昔話や伝説の採集、研

究もした。福田は、柳田の分類案には異類婚姻

の結末のためたさを言う神話的伝承が隠され

ていると指摘。そのうえで、日本の昔話は婚姻

が完全に果たされない、優れた子孫が出来る結

末にならない。つまり神話の考え方を否定する

ところに発生しているという。ただし、婚姻関

係が破綻しても、異類の胤（たね）が人界に残

される場合もあるので、簡単には言えないので

はないかと私は考える。

そして福田は、天人女房や狐女房などの一部

では子種を留めて始祖伝説（先祖の始まりを語

る伝説）の名残をのぞかせているものがあると

いう。有名なのは陰陽師の安倍晴明で、彼は異

類（狐）と人間の子ともだったという伝承。も

う一つ、天人女房は子どもを地上に留めないこ

とが多い。

それから、異類智譚では異類は厭うべきもの

として登場。異類女房譚の方に神話的伝承、始

祖伝説の名残が多く留められていると指摘。私

の見解だが、異類女房譚は夫が見るなの禁忌を

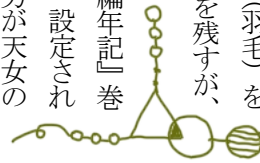
侵犯し婚姻関係が破綻する傾向があり、異類智

譚は望まない異類の夫との婚姻を知恵によつ

て回避または解消する傾向がある。

○白鳥処女説話または始祖伝承と御伽草子・昔話

古代中国、干玉（4世紀の人）による志怪（小説）『捜神記』巻一。親孝行の男に天帝が応えて天女を遣わした話。結婚はするが、天女は役割が終わると帰ってしまふ。天人女房譚、白鳥処女説話の世界でも最も古い文献の記録。鶴女房も白鳥処女説話の一つと考える。もう一つは『捜神記』巻十四。男が天人の毛衣（羽毛）を隠し、天人と人間が結婚して子どもを残すが、天人が子どもを天に連れて帰る話。



古代日本、始祖伝承として『帝王編年記』巻第十がある。成立は南北朝時代だが、設定されている時代は奈良時代の養老7年。男が天女の羽衣を盗み、2人は結婚し子が生まれるが、天女は羽衣を探し出し天に昇った。生まれた子どもたちはその地の先祖という話。また『丹後国風土記』（逸文Ⅱいづぶん、原本はなくなったが別の書物に引用されて残された文献）。原本は720年頃といわれる。池に天女が降りてきて水浴をする。老夫婦の翁が1人の衣を隠し天女は夫婦の子になる。万病を癒す酒を造り、夫婦は豊かになるが、夫婦はもう天女に用はないと追い出す。天女は嘆き放浪する。この二つの話が「鶴女房」の古い形と考えられる。

中世日本、室町時代末から江戸時代前期につ

くられた物語に『御伽草子』がある。その中に『鶴の草紙』があり、こちらは幸福な婚姻。鶴女房の室町、江戸時代の語りが背後にあつて、読み物に仕立てた一種の昔話の再話絵本。

○恋愛から放生・報恩へ



古くは始祖伝承があり、古代になると恋愛を中心にした語り方が生まれ、中世では放生・報恩がテーマとなる。その筋道の中に「鶴女房」を置くとわかりやすい。浦島を例にとると、丹後国風土記逸文の浦島譚では、釣り上げた亀が美女となつて浦島を蓬莱山にいざなう恋愛物語として語られる。万葉集では、海坂（うなさか）を越えた浦島が海神（わたつみの娘と出会うという語り方。奈良時代には恋愛と結婚の破綻が中心になっている。中世になると仏教の影響が見られる。御伽草子は、放生・報恩の物語になる。生き物を解放してやると、それに生き物が応える。恩返し。恋愛から放生・報恩になるのが大きな流れ。鶴女房は恩返しの一つ。現在の鶴女房をこの流れにおくと放生・報恩になる。これに婚姻の破綻が結びついているという位置づけで考えてよいだろう。



□参加者とのやりとり

森 なぜ矢川澄子再話を選んだのか。他の絵本

とどう違ったか。

参加者 講座で赤羽末吉を取り上げたことがあり矢川というより赤羽末吉の画に焦点を合わせた。事前学習で分かったのは木下順二『夕鶴』の前と後で絵本が変わるということ。前は、そののかす第三者は出てこない。後の絵本には男に名前がついている。いもとようこの『つるのおんがえし』は男も女も名前がついている。

Q 昔話は中身を変えていくのか。

森 時代の影響を受けて変化していく。書物から学んだことが入ってくるだけではなく、書物をもとにした話を昔話として語ることは珍しくない。お年寄りが語り継いできたものというのはある種の幻想。本来は文字に媒介されない話だが、文字の世界が強く働きかけている。

森 矢川の『つるにようぼう』の女は「むすめ」で一貫している。事前学習会で話題になったが、参加者 「女」とするべきではという意見が出たが、そこから進まなかった。

森 結婚した女を普通「むすめ」とは呼ばない。

参加者 昔話は同じ場面は同じ言葉で語る。同じ人は同じ名前と呼んだのは。

参加者 文学的な装飾の多い話なので何か意図があると思うが、わからない。

参加者 「むすめ」だと、鶴の美しさや優しさなど恋愛側面が出るようにも思う。

森 矢川は詩人で、翻訳、小説、評論など多彩な活動をしている。繊細な言葉の選び方をしていてそれが絵本にも表れている。その観点から「むすめ」と一貫して書いたのではないかと思うが、わからない。2002年に出た雑誌『ユリイカ』の追悼特集のタイトルが「矢川澄子・不滅の少女」。周囲は矢川を少女のように見ていたと思う。そのことを矢川が自覚、あるいは意識的にするように振舞っていたとしたら、『つるにようぼう』に自己を投影していた可能性を見たい。矢川の書いたものや他の人の論評を読むとそれを感じた。自分を鶴になぞらえて書く、ということがあった人ではないか。子どものために書いたものかもしれないが、自分自身のために書いたところがあったと考え重ねてみると、これを感じた。これは答えではなくて私の憶測。



参加者 「むすめ」が「つらそうになみだをうかべて…」というのに対して、男は「もみ手をしながら」待つ。現代も女性は耐えて頑張っているのに男は理解できてない。その構図はまるで変わっていない。(報告 木村一恵・横田恵美)

◇報告 オンライン講座

第6回「グリム童話の魅力」

テキスト「ホレおばさん」

日時 8月30日(土) 19時〜21時

講師 竹内識晃(東京家政学院大学非常勤講師)

参加者 5人

【講師から】

「グリム童話の魅力」は、『子どもと家庭のメルヒェン集』(通称『グリム童話集』)を比較民話学の観点から読み解く講座です。第6回は「ホレおばさん」(KHM24)を取り上げました。



「ホレおばさん」では、寡婦に2人の娘がいいます。1人は、きれいで働き者で、もう1人は、みにくくてなまけ者でした。母親は実子のなまけ者の娘ばかりをかわいがり、働き者の継娘に仕事を何もかもさせていました。継娘は井戸端で糸紡ぎをしていた時に糸巻きを井戸のなかへ落とします。母親はそれを許さず、継娘は井戸へとびこみます。目が覚めると、継娘は花咲く草原にいます。継娘は助けを求めてきた、パン焼きがまのパンを出してやり、りんごの木をゆすぶってやります。小さな家に大きな歯のホレおばさんが住んでいて、家事を手伝ってくれ



れば幸せにしてあげる、と言います。継娘はしばらく幸福に暮らしますが、故郷が恋しくなります。ホレおばさんは門のところで金の雨を降らせ、糸巻きを持たせて継娘を地上に帰します。継娘から事情を聞いた母親は、実の娘を井戸にとびこませます。不親切な娘はパン焼きがまのパンを出してやらず、りんごの木もゆすぶりません。実の娘は、ホレおばさんの家でも2日目には、なまけはじめます。ホレおばさんは、家事をしない実の娘にひまを出し、門のところでタールを浴びせます。タールは実の娘の身体にこびりつき、一生とれませんでした。

「ホレおばさん」のメルヒェンは、H・J・ウター著の『国際昔話型カタログ 分類と文献目録』では、ATU480「親切な少女と不親切な少女」の話型に分類されています。

「ホレおばさん」のテーマは、「親切な娘と不親切な娘の対照的なふるまいに対する超自然的な存在の報酬」と「家族の葛藤(継子と実子)」です。このメルヒェンでは、登場人物の取った行動によって、ホレおばさんの対応が異なり、得られる報酬も変わります。

超自然的な存在が、主人公に与える仕事は、魔法のしらみを取る、妖精の髪をとかす、動物

の世話をするなどです。主人公は、いずれも怖がらずに親切的態度で接します。その結果、すばらしい報酬を手に入れることができます。

グリムのメルヒエンでは、家族が敵対し、主人公を虐げることがあります。「灰かぶり」(KHM 21)でも、継子をいじめるのは継母とその娘です。家族から虐げられた主人公が、超自然的な存在の援助で美しく変身したり、幸運な授かりものをしたりして、幸せをつかむ話は世界中で伝承されています。

家族の葛藤は異母姉妹のような継子と実子に固定されているわけではありません。子どものための聖者伝説にある「森の中の聖ヨセフ」(KHM 201/ATU 480)のように3人の娘が実子の話もあります。「森の中の聖ヨセフ」では、聖ヨセフが白い髭の神々しいおじいさんの姿で現れます。3人の娘が、それぞれ森で迷ったときに、おじいさんに出会います。次女と三女は聖ヨセフを敬う親切な対応をしますが、長女は自分を優先して、敬わないのです。聖ヨセフからもらったお金も、三女はすべて母に渡すのに対して、次女は2つ3つ、くすねて渡しました。長女は母親にお金の袋をなくしたと嘘をつきます。母親と長女が探しに出かける

と、とかげや蛇が出てきて、長女を刺し殺し、母親の足を刺しました。

「ホレおばさん」の地下世界は、異界です。ホレおばさんは人間界と異界との橋渡しをする超自然的な存在です。メルヒエンの異界には、井戸の底、泉、池、川、森などがあります。

民間伝承では、池、泉、川、沼、湖、海には、「水の精」が棲むと信じられてきました。

ホレおばさんの話は、グリムのメルヒエンだけでなく、伝説にも対応した話があります。

グリム兄弟編者の『ドイツ伝説集』第1巻(1816年)は、土地の伝説集です。巨人、小人、水の精、竜、狩魔王などの土地にまつわる不思議な伝説が、ほぼテーマ別に分類されています。

『ドイツ伝説集』のホレ(ホラ)さまの話は、「ホレさまの池」「ホラさまは巡り歩く」「ホレさまの風呂」「ホラさまと忠実なエッカルト」「ホラさまと農夫」の5話(4話〜8話)です。

題名は、吉田孝夫訳によりました。『グリムドイツ伝説集』八坂書房、2021年

『ドイツ伝説集』のホレさまはヘッセンのマイスナー山地を中心に伝承されています。ホレさまは、きちんとした性格で家事に気配りをします。もし人間の世界に雪が降れば、ホレさま

が布団をはたいていて、その綿くずが宙を舞ってきた、と言いならわしています。伝説には、ホレさまの泉を詣でる女たちを健やかで子だくさんしてくれる伝承、怠惰な糸紡ぎ女には罰を与えたり、一所懸命に糸を紡ぐ娘には紡錘を贈り物として授けたり、娘に代わって、糸紡ぎの仕事をしてくれたりする伝承もあります。

『ドイツ伝説集』のホレさまも、メルヒエンと同様に、人間に幸運をもたらすだけでなく、罰を与えることもある、両義的な存在です。

『グリム童話集』の第7版は、1857年の刊行です。グリムのメルヒエンには当時のものの見方、考え方が反映しています。読者の皆様はその点を理解して、グリムのメルヒエンを読んでいたただけだと考えています。グリムのメルヒエンを現代の価値観に当てはめて読むと、価値観の違いから、いろいろと納得できないと感じる点があるかも知れません。

おはなし会の選書の際に、グリムのメルヒエンや、その絵本を読まれて、語り手が話の内容や表現に疑問を抱かれた時には、メンバーと、じゅうぶんに相談して、お話を選んでいただきたいと思っています。

講座報告

「幼年童話(絵本から物語への架け橋)」

日時 10月15日(水) 10時〜12時

会場 熊本市青年会館第一会議室

参加者 12人

担当 有久賢治

■アーノルド・ローベル作品を中心に

〔作者紹介〕 1933年米国生まれ87年死去。

病気がちで両親の離婚もあり、寂しい少年時代。芸術系大学でイラストを学ぶ。『ふたりはいっしょ』(文化出版局)でニューベリー賞、『どうぶつものがたり』(同)でコルデコット賞受賞。

〔代表作紹介〕 (すべて文化出版局発行)

『どろんこいばた』(69年刊、岸田衿子訳)

こぶたは小屋前の大好きなどろんこがなくなり、どろんこを探す旅に出る。都会のセメントにはまったところを農場のおじさんおばさんが見つけて農場に戻り、再びどろんこを作ってもらう。消費社会や環境汚染への諷刺と生き物や子どもへの温かい眼差しを感じる。

『ふたりはともだち』(72年刊、三木卓訳)

教科書に第5話「おてがみ」掲載。のんびり屋のがまくとお人好しのかえるくんの話。がまくんがかえるくんの手紙が来たことがない



と嘆く。かえるくんは手紙を書き、かたつむりに配達を頼む。友情厚いやりとりに心温まる。〔教師指用導書への訳者の言葉抜粋〕「こどもらしい、自然な生きた心が、おはなしの都合や何かで曲げられないでできている、というのがローベル作品に共通する特質である」

『きりぎりすくん』(78年刊、三木卓訳)

旅に出たきりぎりすくんが「おはよう組」や、様々な種類の仲間に出会い、困難を乗り越えていく。自分の道を進む昆虫世界に教わる、人生哲学の趣きもあり、大人も好む話である。

■海外と日本の幼年童話

○岩波書店の翻訳作品

岩波書店が編集に石井桃子、光吉夏弥らを迎え53年に発刊した「岩波子どもの本」が翻訳作品の先鞭を付けた。『おかあさんだいすき』(M・フラック文絵、光吉夏弥訳)『はなのすきなうし』(M・リーフ文、R・ローソン絵、同訳)『どうぶつ会議』(E・ケストナー作、W・トリアー絵、同訳)、『百まいのドレス』(E・エステイス作、L・スロボドキン絵、石井桃子訳)など今も版を重ねる名作がある。石井は「絵と文でたつぷりと物語る絵本は、子どもの文学の入口である」と語る。



○福音館書店の出版展開

後に社長となる松居直が入社した福音館書店は56年に月刊「こどものとも」「かがくのとも」を創刊、全国の子ども読者を得た。松居は新進気鋭作家や異業種画家にも制作を依頼し、加古里子、堀内誠一、長新太、安野光雅、赤羽末吉から名作絵本が生まれた。『いやいやえん』(62年刊、中川李枝子作、大村百合子絵)『ありこのおつかい』(68年刊、石井桃子作、中川宗弥絵)などの幼年童話が発行された。

■おわりに 世代を超えて読み継がれる幼年童話は、ローベル作品などに見られる物語性と子どもの純粹さや人間のあるべき姿が丹念に描かれた作品だと言える。(報告 有久賢治)

【参加者の主な感想】 幼年童話の歴史を学べた▼名作をいかに読み継ぐかは課題▼教科書・漫画・アニメも読書への入口になる▼読み聞かせから一人読みの橋渡しに幼年童話を読み切ると、先が知りたくて子どもは自力で読み始めると、装丁の美しさも、幼年童話に求められる要素▼『ふたりはともだち』は三木卓の無駄のない翻訳が子どもを惹きつけ、大人も魅了する。

(記録 安田暁子)

報告第12回「子どもと大人の読書会」

課題図書『クローバーと魔法動物① 運のわる

い女の子』（ケイリー・ジョージ作、久保陽子訳）

日時 10月5日（日）午前10時～11時

場所 オンライン会合（ZOOM）

参加者 8人（小学6年女児3人▼大人5人）

司会 興津 暁子

課題図書『クローバーと魔法動物① 運のわる

い女の子』は、少女クローバーが魔法動物紹介所で働きながら成長していく物語。小学生参加者のある問いかけからやりとりがグッと深まっていきました。以下は主なやりとりです。

※ ※

自分のことをツイてないと思う女の子が魔法動物紹介所でユニコーンやドラゴンなどの魔法動物と出会い、いろんな人と触れ合っていくところや、魔法のヨコシマがクローバーを捕まえて不運の薬をつくったつもりが、幸運の薬が出来てしまうところが面白かった（小A）▼クローバーが魔法動物を育てるのはうらやましい。魔法がドラゴンの爪を切ったり、ユニコーンの毛を切ったりするのは最悪。動物が可哀そう（小B）▼最後にクローバーが自分はツイていないわけではないことに気付くシーンが



好き。31頁でクローバーが所長のジャムズさんに「わたし、いつもツイてないんです」と言うのと、ジャムズさんが「ツイていないかどうかは……」と言いかけるシーンがある。あそこでジャムズさんは何を言いたかったのかをみなさんに聞きたい。私は、「ここには君にも合う動物もいるから大丈夫。ツイているかいはいかはこれから分かる」と言って安心させたかったのかなと思ったが……（小C）



▼ツイていないかどうかは考え方次第だよと伝えたかったのでは。飼っていたカナリアが逃げたのはツイていなかったかもしれないが、おかげで魔法動物紹介所に出会えたのでツイている（大D）▼冒頭に「幸運はきつと自分のところにやってくると信じる人のところだけにくる」と書かれていた（大E）▼自分次第と言いたかったのでは。自分がどう思うかが分岐点になる（大E）▼ジャムズさんはクローバーならやれると分かっていたと思う。カナリアを保護するために森に入っていく行動力と責任感をジャムズさんは見ていた（大G）

▼ジャムズさんがクローバーにいろいろ仕事を任せるところがいい。失敗を恐れずに一生懸命やることで得るものはたくさんある（大

D）▼確かに魔法動物の飼い主として適正かどうかを判断するなど難しいことをたくさんやっている（大E）▼クローバーは私たちと同じくらいの年齢だと思うので尊敬する（小A）▼私だったら無理かも（小B）▼小学生にはこうした成長物語をたくさん読んでほしい（大H）▼全編にわたって人間関係の肝が散りばめられていたのが印象的。例えば37頁の「クローバーは」お母さんが親身に話を聞いてくれたので元気が出て……。気の合う人と話して元気になるのは、相手がちゃんと話を聞いてくれるから。お父さんの存在感も感じた（大F）

※ ※

司会者が参加者に「どんな魔法動物を飼いたい？」と聞くと、火を吐くドラゴン、手の中に納まる小さな妖精馬、魔法猫、上と下が違うヒツポグリフ、夜の番をするこびと……など好みに分かれて盛り上がりました。大人参加者から同じ著者の『ハートウッドホテル』全4巻の紹介もありました。今回の課題図書『クローバーと魔法動物』全3巻はびわの木文庫にあります。読書会の詳しいやりとりはホームページの「会員の広場」でご覧いただけます。



（報告 横田恵美）

12月～1月の活動の案内

○公開講座 「日本の昔話を読む」

課題本 『かさじぞう』

日時 12月17日(水) 10時～11時30分

場所 熊本市交流館バレー会議室7

参加については、ホームページをご参照下さい。

○講座 『あたまをつかった小さなおばあちゃん』

(福音館書店)を読む

日時 1月21日(水) 10時～11時45分

場所 熊本市立図書館集会所

*会員外の方も500円で参加できます

講座申込アドレス kouza@kodomonohon.org

○研究会活動検討会(オンライン)

日時 12月7日(日) 10時～11時

○子どもと大人の読書会(オンライン)

日時 1月11日(日) 14時～15時

課題図書『魔女の宅急便』(角野栄子作)

*申込アドレス zoom@kodomonohon.org

○おはなしボランティア『びわの木』

12月3日(日) 18時半～19時半

つばめ保育園(保育士さん対象)

12月8日(月) 13時～13時半

熊本大学教育学部附属特別支援学校(中学部)

12月10日(水) 10時～11時 江津湖療育医療センター



12月12日(金) 10時50分～11時20分
熊本県立熊本支援学校

12月19日(金) 13時～14時半 江津湖療育医療センター

12月23日(火) 13時20分～13時50分

熊本大学教育学部附属特別支援学校(小学部)

1月8日(木) 11時～11時半

熊本県立図書館(0歳児)

1月16日(金) 10時半～11時半

緑川こども園子育て支援センター(宇土市)

○『びわの木文庫』貸し出し

スケジュールをホームページでご確認の上、

来られる際は事前にご連絡願います。

<https://kodomonohon.org/biwanoki/>

本はともだち！

先日、子育て世代の方々に研究会活動に参加

してもらった方策を議論していたところ、今年度

入会された中村雅孝さんから、熊本市の結婚・

子育て応援サイトに登録してはとの提案があり

ました。子育て世代がよく、覧になるサイト

とのことでした。

早速研究会でも登録申請をし、活動内容や今後の

予定を掲載しました。このサイトを通して子

育て世代の方々が研究会の活動に興味を持ち、



講座や読書会に参加したり、びわの木文庫に借

りに来てくれたりすることを期待しています。

またこのサイトへの登録を通して、熊本市内

に多くの子育て支援団体があることを知りま

した。については、子育て支援をされている団体

に、びわの木文庫の本を無料で貸し出し、活用

していただくこともあり得るのではないと思いま

した。身近にいらつしやる子育て世代の方々及

び子育て支援を行なわれている方々にぜひご

紹介願います。左記二次元バーコードからアク

セス願います。(横田 真)



■地域福祉功労顕彰をいただきました。

10月25日開催の熊本市社会福祉大会で、当

研究会が長年にわたるボランティア活動で表

彰されました。表彰式には会員の木村一恵、辻

由美が出席しました。

■編集Ⅱ金子・上林・横田 《イラスト》安田

特定非営利活動法人

熊本市子どもの本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区西原1丁目15の24

電話 096(382) 5090

